

哲学から

統計の「意味」を 考える

今日、統計学やデータサイエンスは、データに基づいて合理的に意思決定を行うための手法として特権的な役割を担っています。

しかしなぜ、統計学は科学的な判断を可能にするのでしょうか？

その背景には、単に数理的土台だけでなく、「なぜそのような数学的手法を現実の問題に当てはめることができるのか」ということに関する種々の哲学的仮定が存在します。

本講演では、古典統計、ベイズ統計、因果推論などの背後にあるそうした仮定に、存在論・認識論という哲学的観点から光を当てることで、統計学を「腑に落とす」ことを目指します。

2025

TUE 6.3

15:30-16:50

講堂 多目的ルーム I



講師：大塚 淳 先生

2003 年京都大学文学部卒

2011 年、京都大学博士（文学）取得

2014 年、インディアナ大学修士（応用統計学）、同大学博士（科学史・科学哲学）取得

神戸大学大学院人文学研究科准教授、京都大学大学院文学研究科准教授を経て、

現在 ZEN 大学知能情報社会学部教授、滋賀大学データサイエンス・AI イノベーション研究推進センター 特任教授、理化学研究所 AIP 客員研究員。専門は科学哲学（生物学の哲学、統計学の哲学）。

著書に The Role of Mathematics in Evolutionary Theory (Cambridge University Press, 2019)、

『統計学を哲学する』（名古屋大学出版会、2020）

およびその英訳 Thinking About Statistics: The Philosophical Foundations (Routledge, 2023) がある

▶対象：学内 学生、教員、

コンソーシアム会員企業

▶開催：対面および WEB 併用

滋賀大学 データサイエンス・AI イノベーション研究推進センター

お問合せ:dser-center@biwako.shiga-u.ac.jp